

行動障害支援の質向上と職員育成推進事業

社会福祉法人 けやきの郷

〒350-0804 埼玉県川越市下広谷 549-1

助成事業の概要

本事業は、強度行動障害のある方への支援の質を高めるとともに、法人全体で専門的な支援ができる体制を整えることを目的として実施しました。これまでの支援は職員個々の経験に依る部分もあり、支援方法を整理し共有する必要があったことから、本事業を企画しました。本事業は、法人内における学びの場として設置した「けやきラボ」が主催し、人材育成および支援の質の向上を目的として中心的に推進しました。年度内に法人施設において、事例検討会、実地指導、研修を段階的に実施しました。事例検討会では応用行動分析（ABA）を用い、利用者の行動の背景や支援方法についてグループで検討を行い、講師から助言を受けました。実地指導では、実際の支援場面において行動観察や振り返りを行い、支援内容の見直しにつなげました。さらに、生物・心理・社会（BPS）モデルに基づく研修や構造化支援に関する講義・実地指導を通して、職員のアセスメント力と実践力の向上を図りました。加えて、学んだ内容を日々の支援に活かしながら継続的に振り返ることで、支援の定着と質の向上を図りました。

事業の成果

本事業「行動障害支援の質向上と職員育成推進事業」では、専門家を招聘し、各種研修および実地指導を実施しました。その結果、支援の質の向上と人材育成の両面において、多くの実践的な成果が得られました。各研修後のアンケートからも、

得られた知見が実際の支援現場に活かされている様子が見えてきます。

まず、「BPS モデル研修」では、支援課題や支援計画の根拠を言語化し、それを支援者間で共有することの重要性について理解が深まりました。これにより、情報の整理からプランニングまでの流れが明確になり、根拠に基づくアセスメントの実践につながっています。

次に、「事例検討会」では、他部署や他事業所の職員が参加し、多角的な視点からの検討が行われました。参加者からは「支援の視点が広がった」「新たなアプローチに気づいた」といった声があり、支援の幅を広げる機会となりました。

また、「実地指導研修」では、問題行動への対応にとどまらず、生活全体を見直し、利用者の生活の質（QOL）を高める視点の重要性が共有されました。地域の支援者にも活用できる内容であり、今後の地域への広がりも期待されます。

さらに、「構造化支援」に関する研修では、環境調整の重要性への理解が深まり、現場での実践につなげていきたいという意欲の向上が見られました。

これらの取組を通じて、職員一人ひとりの専門性が高まり、自信をもって支援に取り組む姿勢が育まれました。また、職員間の共通理解と連携が進み、組織として支援の質を継続的に高めていく基盤づくりにつながったと考えます。

■ 成果の広報、公表

本事業の成果については、各研修終了後にアンケートを実施し、その結果を取りまとめて参加者および法人内へフィードバックを行いました。実際の利用者事例を扱う事業の特性上、プライバシー保護の観点から外部への詳細な公表は控えていますが、組織内において実践的な学びを共有し、支援への還元を図っています。

また、本成果レポートが公表されることで、当法人の行動障害支援に関する取組や、専門家を交えた事例検討の有用性が、地域の福祉関係者をはじめ広く共有されることを期待しています。

今後は、本事業で得られた知見やノウハウを、地域の関係機関との連携の場などを通じて発信し、地域全体の支援力向上につなげていきます。

■ 今後の展開

本事業で得られた BPS モデルや応用行動分析（ABA）、構造化支援といった専門的な視点、そして利用者の生活の質を重視する支援の考え方については、一過性のものとせず、法人内で継続的に実践・定着させていきます。

具体的には、研修で得た知識を日々の支援の中で実践し、ケース会議や「けやきラボ」等の事例検討の場を通じて定期的に振り返りを行います。実践と振り返りを繰り返すことで、学びを深め、より質の高い支援へとつなげていきます。

また、職員同士が実践を共有し、互いに学び合うチームアプローチを強化することで、組織全体の支援力の向上を図ります。

さらに、法人内で培った専門的なノウハウを地域の関係機関へ発信し、地域全体の福祉の向上に寄与していくことを目指します。